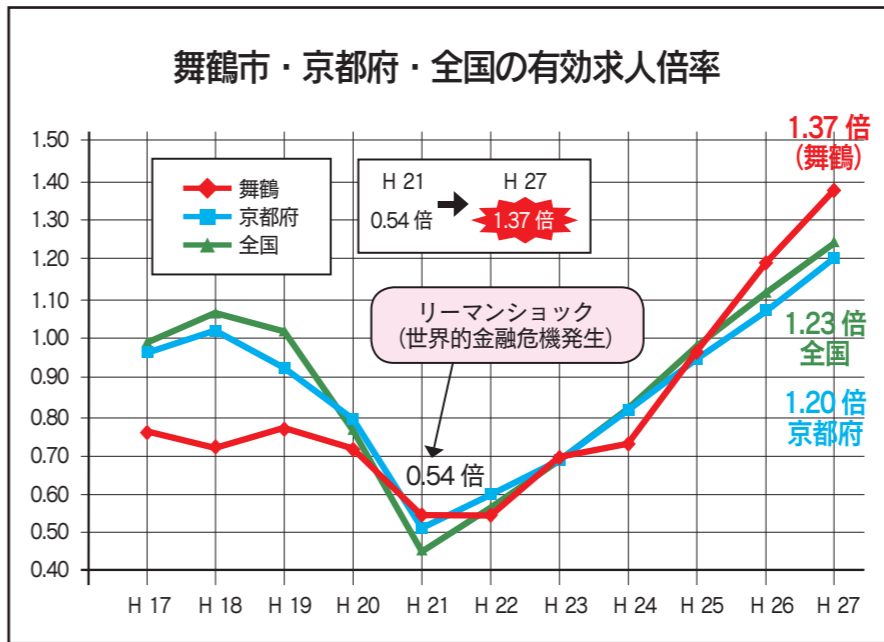


# 活力あるまちづくり 地域経済の安定と活性化

市では、将来にわたって活力ある地域を持続させていく地域経済の安定と活性化に努めています。シリーズ市政の「今」。第38回は、安定的な雇用の創出や地域産業の生産性の向上、高付加価値など活力あるまちづくりを目指した取り組みについてお知らせします。



(※) 有効求人倍率…求職者に対する求人数の割合を示すもので、有効求人数を有効求職者数で除して得たもの (有効求人数÷有効求職者数)

### 高い有効求人倍率

株価やエネルギー価格の変動などにより、地方の企業を取り巻く経済環境が大きく変化する中、本市の年度平均有効求人倍率(※)は、平成26年度から2年連続で1.0倍を超え、平成27年度には、バブル期以降最も高い1.37倍を示しています。また、同時期による正社員の同倍率は1.14倍で、これは就職を希望する市民一人当たり1社以上の正社員の求人がある良好な雇用環境にあるといえます。

### 求職者を総合的にサポート

本市の通勤圏内である府北部地域から福井県嶺南地域における従業員100人以上の働く場は、130社を超えており、

「ジョブ・サポートまいる」では、就職相談や職業紹介などの総合的な支援をハローワーク舞鶴や京都府ジョブパークなどと一体的に実施しています。また、WEBサイト「舞鶴働く場ガイド」では、大学卒業予定者やU・I・Jターン希望者などに、市内の求人や企業の情報をリアルタイムで提供しているほか、「ふるさとコールMAIZURU」や「京都府北部7市町合同就職面接会」、「保護者のための就活勉強会」などの機会を通じて求職者をサポートしています。

### 積極的な企業誘致を展開

高速道路ネットワークの完成や京都舞鶴港の機能強化など、本市を取り巻く社会インフラの進展に伴い、本市の企業立地の状況は、直近では喜多地区で食



▲合同就職面接会でU・I・Jターンを促進 (大阪市) (昨年6月29日)

致推進体制を強化するとともに、今年度は、製造業が多く集積する中京圏をターゲットとして、「企業開拓員(2人)」を名古屋市に新たに配置し、積極的な企業誘致活動を進め、さらなる働く場の創出に取り組んでいます。

### 金融機関との連携を強化

平成28年12月2日、(株)京都銀行と「地方創生に関する包括連携協定」を、京都北都信用金庫と「地域振興に関する連携協定」をそれぞれ締結しました。

今後、京都舞鶴港の振興や市内企業の経営安定化、企業立地の推進、移住・定住支援など地域を元気にする「舞鶴

版・地方創生」に取り組み、市が政策目標として掲げる「交流人口300万人、経済人口10万人の都市・舞鶴」の実現を図っていきます。

### 食のブランド力向上を目指して

本市の観光分野全体の観光入込客数は、平成27年は約229万人。平成21年の約141万人から1.6倍に増加しています。また、観光消費額についても同年総額は、約36億5,815万円で、同年21億1,580万円から1.7倍の増加となっています。

地域経済の発展には、観光などによる消費の拡大が重要であるため、舞鶴産の農水産物を使用したメニューや商品

の開発など、食のブランド力向上と消費拡大に努めています。今年度も首都圏で市の特産物などをPRする「舞鶴プレミアムランチフェア」などのプロモーションを展開し、本市の農水産物に高い付加価値を付け、販路の拡大や新たな需要の開拓を図っています。これからも地域の食の魅力を広く発信し、地元食材のブランド化と観光誘客、観光消費の拡大に取り組んでいきます。

### 日本一の舞鶴のお茶

平成28年8月23日〜26日に三重県で開催された「第70回全国茶品評会」団体かぶせ茶の部「産地賞」で、5年連続の日本一を受賞。また、個人

の部でも1位〜5位までを本市の生産者が独占しました。舞鶴には全国に自慢できる素晴らしいお茶があることを市内の人々に知ってもらうため、クルーズ客船が寄港する京都舞鶴港でのお茶の振る舞いや市内ビジネスホテル宿泊者へのティーバッグの配布、市役所での新茶の試飲コーナーの設置など、全国的にも品質の高い舞鶴のお茶の普及促進に努めています(24頁)に関連記事。

### 新たな価値の創造

農林水産業の振興では、1次産業である農林漁業と2次産業の加工・製造業、そして3次産業の小売・サービス業

などの総合的、一体的な推進を図り、農家自ら、また農家と市内の加工業者が連携し、地域資源を活用した新たな付加価値の創造と、所得向上や雇用創出につながる6次産業化の取り組みを進めています。高齢化や担い手不足で1次産業を取り巻く環境は年々厳しくなる中、新たな価値を創造する6次産業化の推進は不可欠であるため、今年度、豊富な実務経験や指導経験など数々の実績を持つ「舞鶴市6次産業化推進アドバイザー」を新たに設置。専門的な知識や幅広い人脈を活用し、本市の農林水産分野の振興を積極的に進めています。



▲株京都銀行(土井頭取:左)と京都北都信用金庫(森屋理事長:右)と連携協定を締結(昨年12月2日)



▲首都圏でランチフェアをレストランFEU(東京都)で開催(昨年6月1日)



▲表彰を受ける河田勝臣・舞鶴茶生産組合長と多々見市長(昨年12月10日)



▲6次産業化推進アドバイザー(右から3人目)から専門知識を学ぶ事業者(昨年7月5日)



▲赤れんが5号棟で行われた6次産業化推進事業「海と畑の新商品フェア」(昨年11月13日)